

# 「たすけて」と言える社会へ

～0から100歳の地域包括ケアのまちづくりにむけて～



奥田知志

NPO法人抱樸 理事長

ホームレス支援全国ネットワーク理事長

生活困窮者自立支援全国ネットワーク 共同代表

# 新学期が来るのが怖い

なぜ、子どもたちは  
助けてと言えないのか？

生活困窮者支援の目的

「助けて」と言える

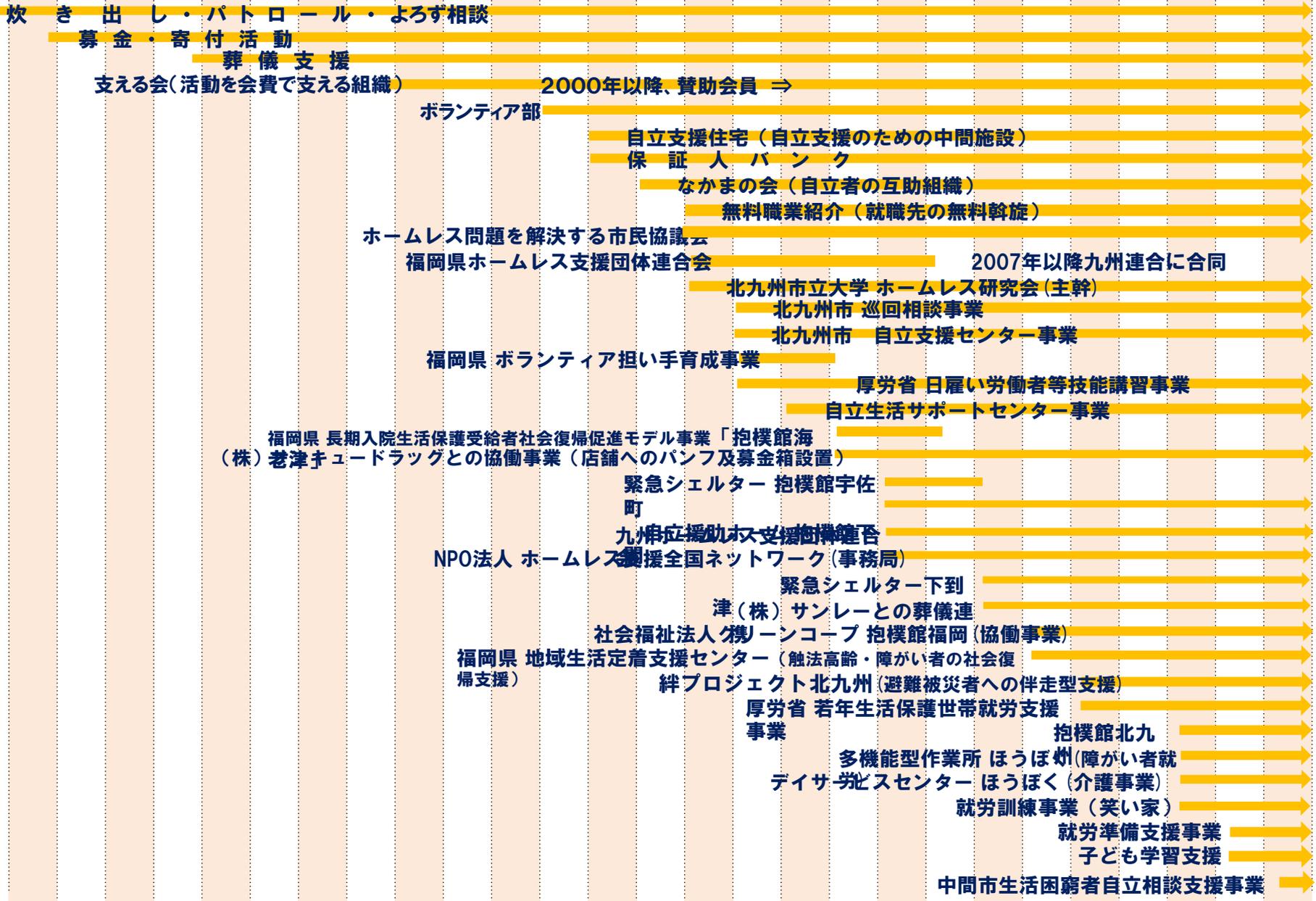
社会の創造

# はじめにー自己紹介

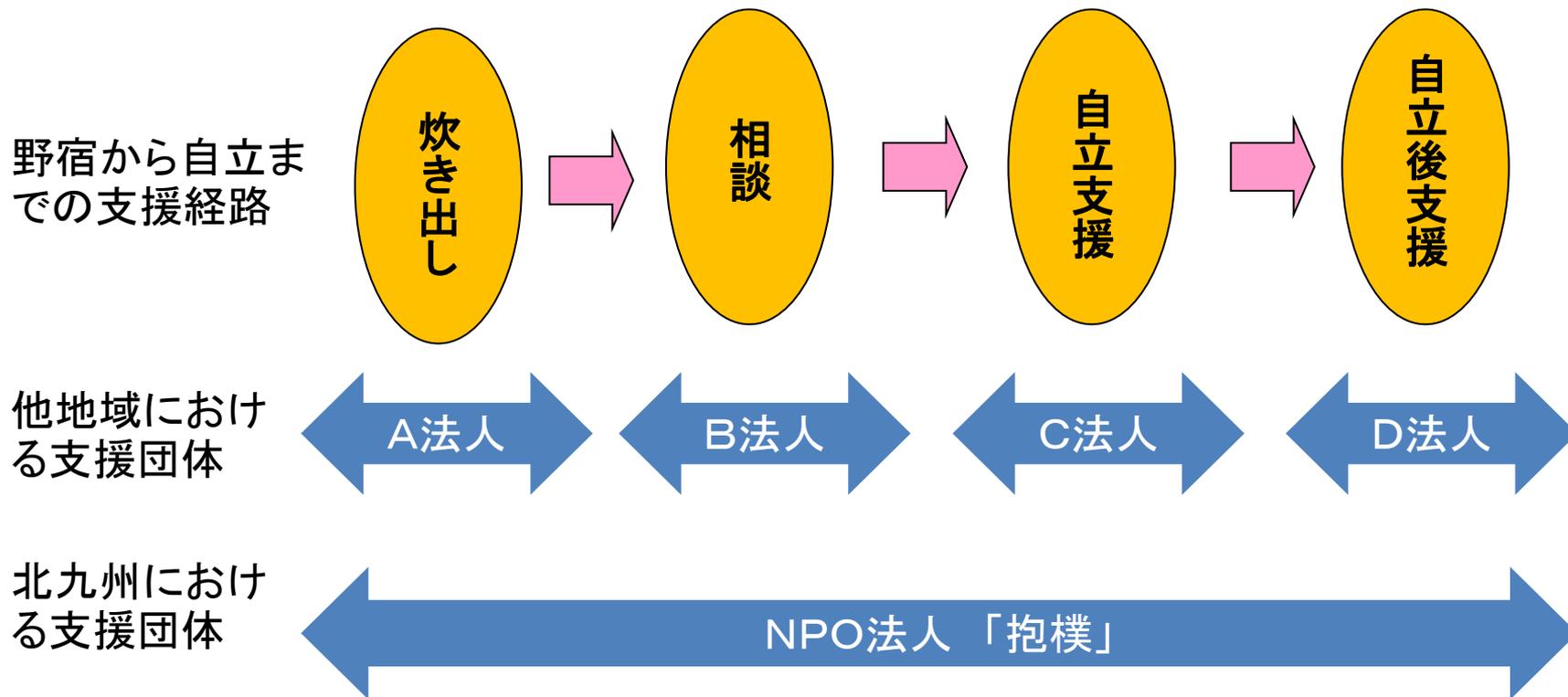
## NPO法人 抱樸 概要

(旧 北九州ホームレス支援機構)

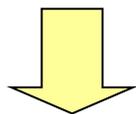
- 活動開始 1988年 27年間
- 自立者総数 2700人
- 自立達成率 93%  
(6ヶ月の自立プログラムを経た方)
- 自立生活継続率 94%
- 就労自立率 58%
- 4つの市で活動(北九州市・下関市・福岡市・  
中間市)・5つの施設運営
- 有給職員90名 ボランティア 250名



# トータルサポート 「出会い」から「看取り」まで



「炊き出し」から「自立後の生活支援」まで1つの団体(同じ顔)が実施



信頼関係の構築・情報の共有

## 団体名の変遷

1988年～北九州越冬実行委員会

2000年～NPO法人

北九州ホームレス支援機構

2014年～NPO法人抱樸

## 基本理念

# 抱樸とは？

ほうぼく

# ① 樺のままを抱く

樺⇒荒木・原木

製材され整えられたら受け取る……手遅れ

原木がそのまま抱き止められること

「何で相談もっと早く相談しなかったの」

困窮者⇒相談しない

困窮状態の自覚困難・ニーズの貧困

# ② 抱き止められた原木には可能性はある

杖となり、家具となり、役割を果たす

「何がしたいの？」

困窮者⇒自分の可能性がわからない

社会的孤立・他者性の貧困⇒自己喪失

しかし

原木であるゆえに刺々しくもある。  
抱く者は、時には傷つく。

## 絆は、傷を含む

たとえ傷ついても抱いてくれる人がいるか？

※社会とはより多くの人

健全に傷つくための仕組み

その存在が

今日の世界が失いつつある

「ホーム」を創ることとなる

# 抱樸⇒包摂型個別支援

例えば……ホームレス支援

当時のホームレス認識⇒飯無・宿無・仕事無(三無)

支援内容⇒炊出し・居宅・就労⇒しかし再野宿

しかし実態は……三つの無しに加え……

障がい(4割)多重債務(6割)、家族絶縁、刑余者

孤立、低学歴、虐待経験、貧困の世代連鎖

ホームレスという人は存在しない。

奥田さん、山田さん、山崎さんという名前のある個人

伴走型支援⇒人を属性で見ない。「個人」として支援

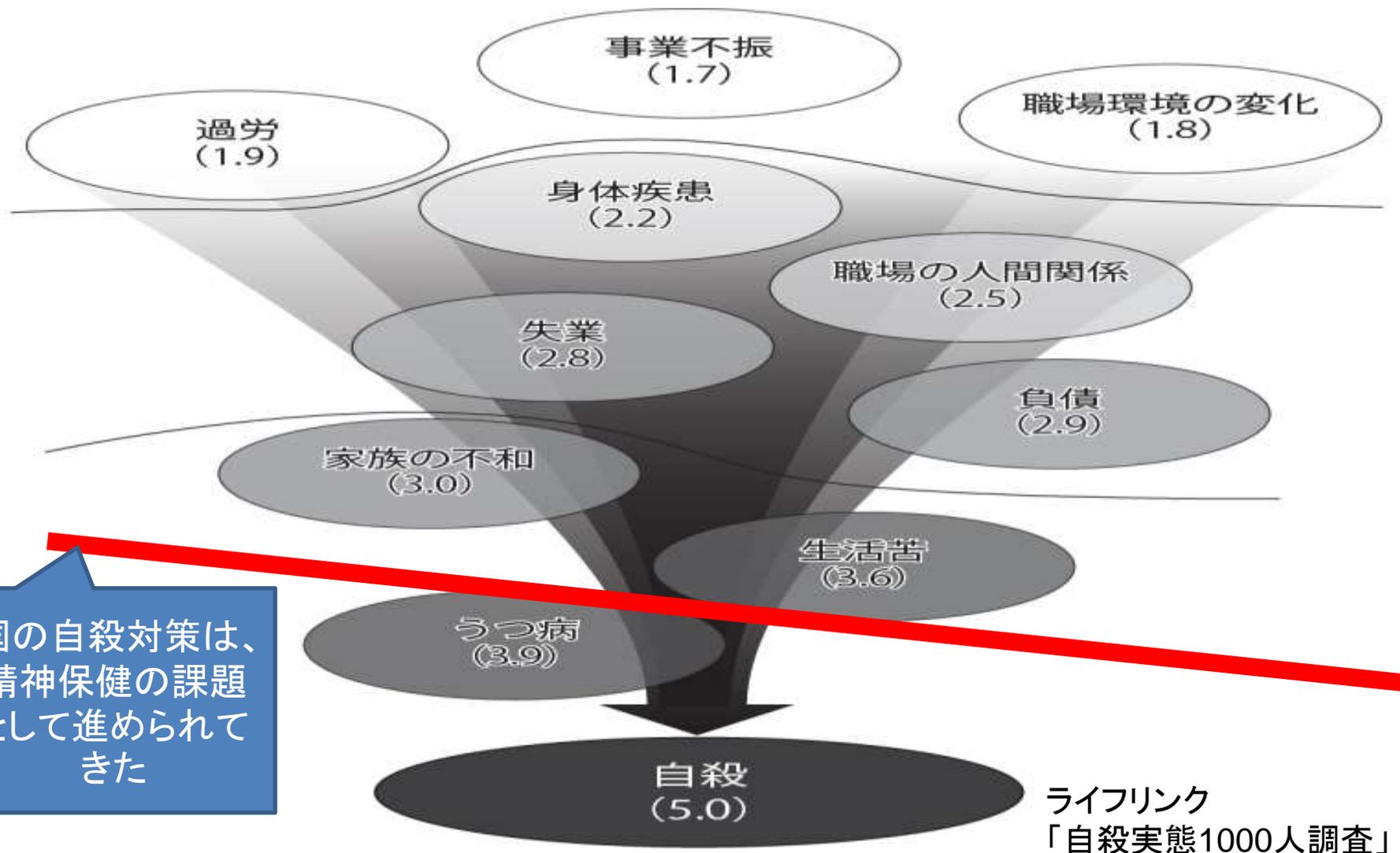
個人の中に複合的問題が存在。個別プラン原則

伴走型支援⇒人生支援＝徹底した個別支援

# 自殺要因の連鎖図⇒どこまで想定するか？

生活困窮者は、複合的な問題を抱えているため、次第に地域との係わりから遠ざかり、孤立化していく傾向にあります。

生活困窮と社会的孤立は表裏一体の傾向があるようです。



国の自殺対策は、  
精神保健の課題  
として進められて  
きた

例えば . . . .

N P O 法人抱樸が実施する  
包摂型世帯支援による子ども支援  
子ども・家族MARUGOTO  
プロジェクト



# 包摂型世帯支援の必要

子どもの貧困⇒学習支援・子ども食堂

若者の貧困⇒就労支援

高齢者⇒介護福祉

障害者⇒障がい福祉

生活保護⇒現金給付

縦割り・ワンフレームの現実

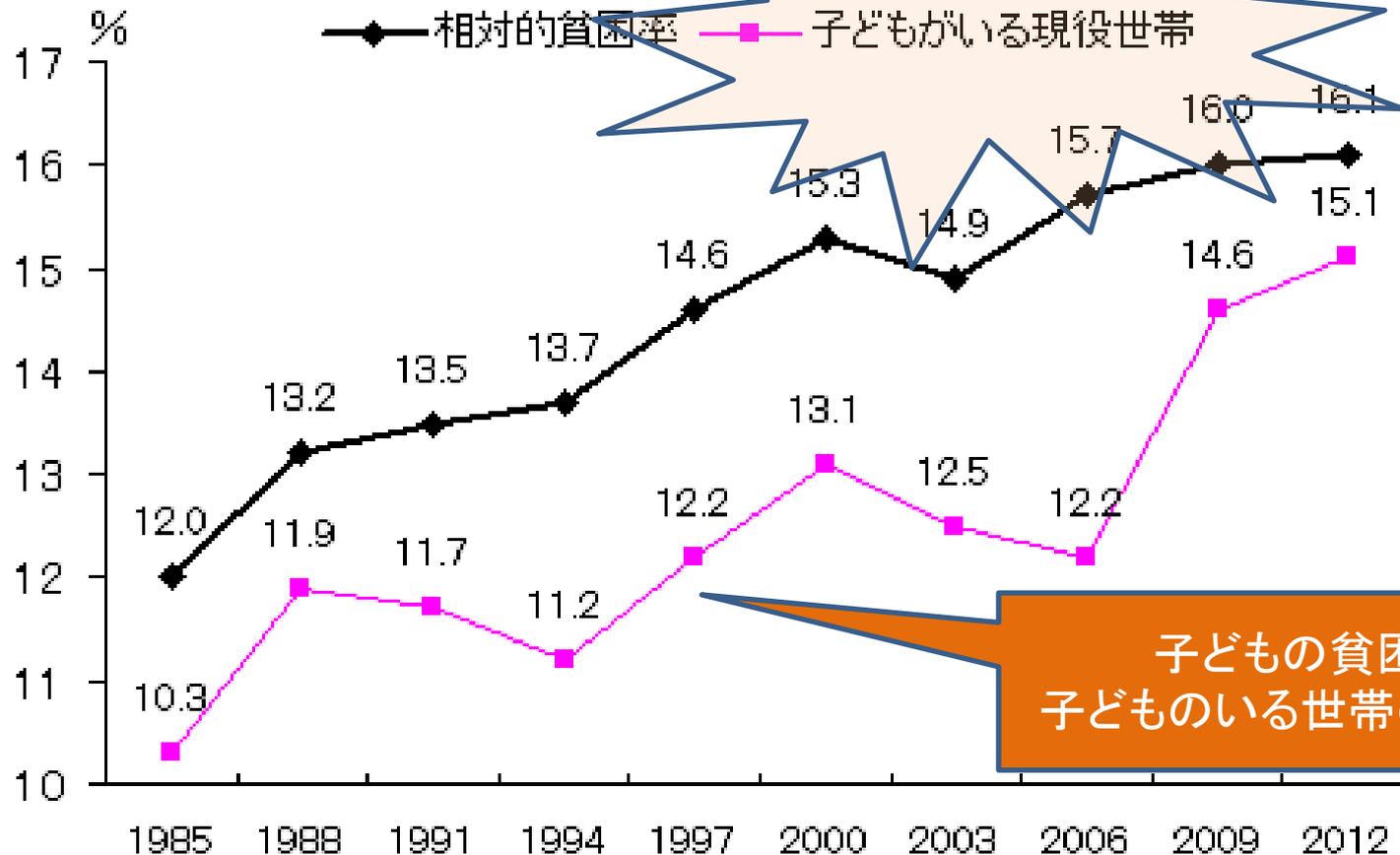
しかし、現実は……複合的

子どもの貧困を学習支援と子ども食堂だけで解決するのは、困難。

子どものしあわせは、親のしあわせ。世帯問題

# OECD相対的貧困率—日本

相対的貧困率の年次推移



子どもの貧困率 ×  
子どものいる世帯の貧困率○

(注) 子どもは17歳以下の者、現役世帯は世帯主が18～65歳未満の世帯

(資料) 厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査の概況」

# なぜ、marugotoが必要か？

例えばこんなケース・・・

- 中学生の不登校⇒教育委員会
- 18歳引きこもり⇒子ども家庭局 保健福祉局
- 母親は精神・失業⇒保健福祉局 労働局
- 父親は失業・DV⇒労働局 保健福祉局

※一つの家庭の中に「役所一つが入っている」  
このような事態に対応するには、縦割り、個別  
の対応では無理。さらに個々人の中にも複合的  
な問題が存在している。

子どもの貧困は、親の貧困、家庭の貧困  
⇒MARUGOTOプロジェクトが必要

# 事例① 祖母・母・子世帯

祖母

身体機能低下



総合型ケースカンファレンス(PDCA)

医療受診

地域包括

抱樸デイ

サポートセンター

デイサービス

母

収監



定着支援センター

保護観察所

訪問介護

定着

子

不登校



学習支援

サポート校

高校卒業

子ども学習支援

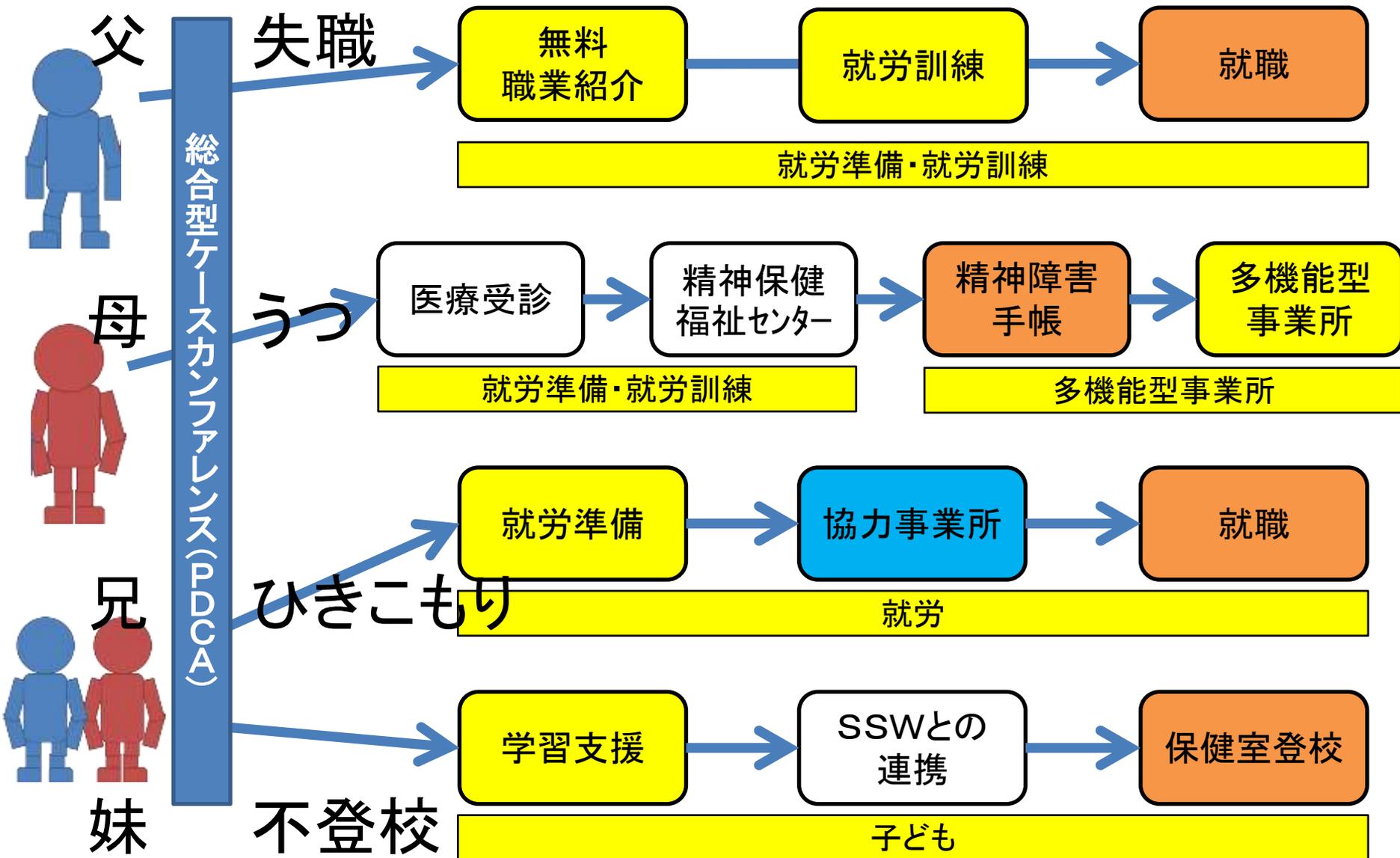
就労準備

就労訓練

就労準備

就労訓練

# 事例② 父・母・兄・妹世帯



# 世帯支援用帳票類の開発

- 現行の困窮者支援の帳票は、個人(対象者)ベース。
- 世帯支援の場合、個人の帳票×世帯人数となってしまうが、世帯全体の状況を把握するためには、世帯用の帳票が必要。
- 実際の「子ども家族marugoto」支援のケースカンファレンスにおいても、支援の進捗によって、世帯の中での主たる課題解決のための対象者が変化するケースがある(第1回目は子どもが中心だったが、2回目では親の課題が明らかとなり、親を中心に考える等)。
- カンファレンス用の検討シートを開発を研究者と行っている。

# 2015年度現在46名

## 集合型 33名

高校生	9人
中卒	1人
高校中退	1人
中学生	14人
小学生	10人

## 訪問型 11人

高校生	1人
中学生	4人
小学生	6人

# その1 困窮者支援の二つの方向性

対個人と対社会

# 最近の出来事から

## 地域とは何か？

2012年3月抱樸館北九州建設開始発表

⇒地域での反対運動

⇒5月から12月の8か月

17回の住民説明会開催

⇒反対理由

初期・・・説明不足

中期・・・建物が大きすぎる

後期・・・「ホームレスは危険」

「ホームレスには障害者が多い」

# 2013年9月に完成



社会福祉法の第二種施設  
⇒無料低額宿泊施設  
30人居住(内5室は自立支援)。  
デイサービス併設。  
地域生活サポートセンター。  
ボランティア部。  
就労訓練レストラン  
無低⇒誰でも利用できる。



# 反対ののぼり旗が立ちました！



# 貧困は社会そのものの問題

## ①「困窮者の社会復帰支援」

と言うが？

⇒そもそも復帰したい社会か？

## ②社会を問わない

⇒歪んだ社会の補完的活動？

## ④新しい社会(地域)の創造へ

⇒個人への徹底した伴走の中で、  
あるべき社会を追及する

# 生活困窮者、障がい者、高齢者 …「者」の世界

2014年4月～

## 生活困窮者自立支援法実施

⇒個人を対象？

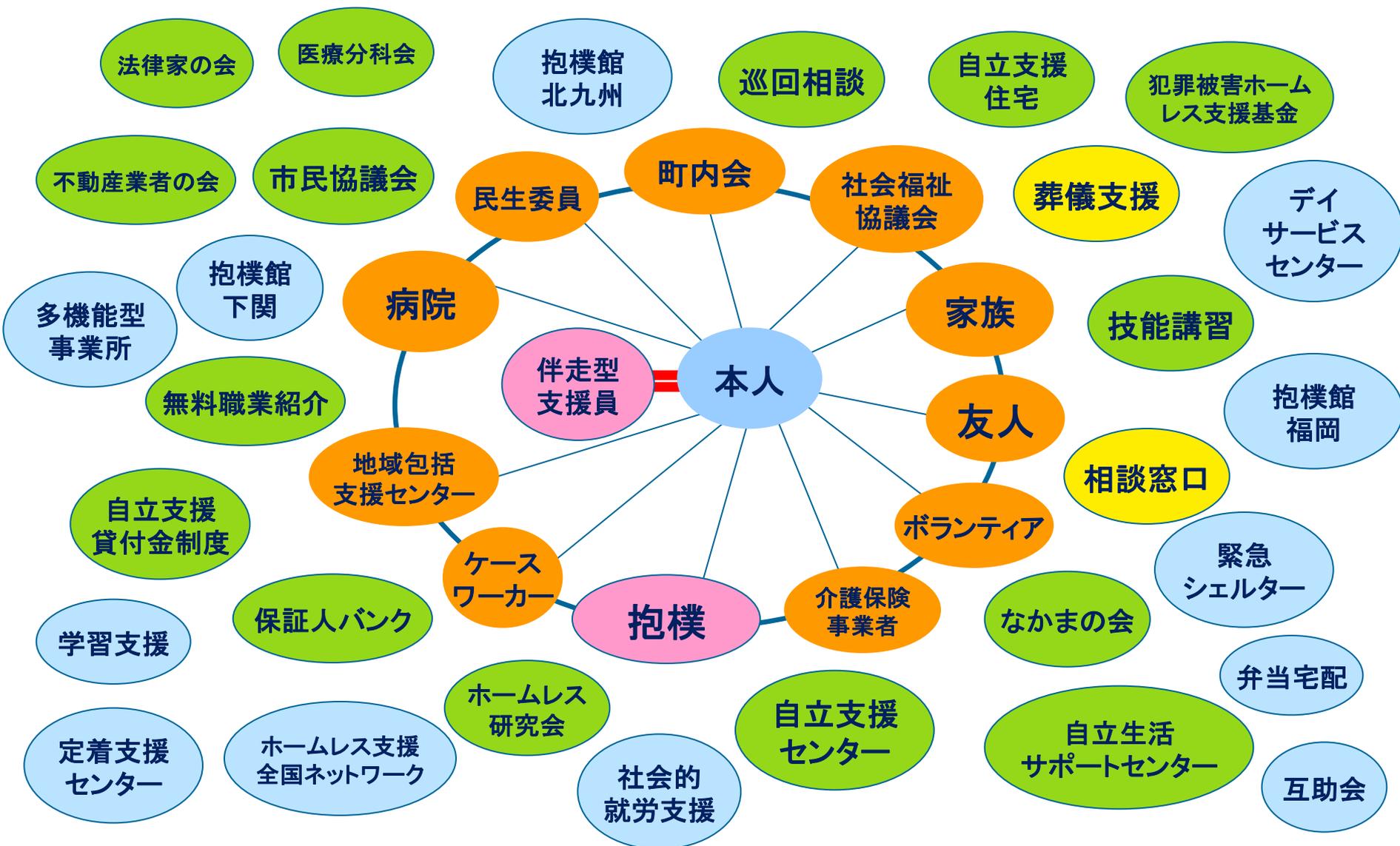
たとえば

⇒生活困窮者創出社会改革法とか

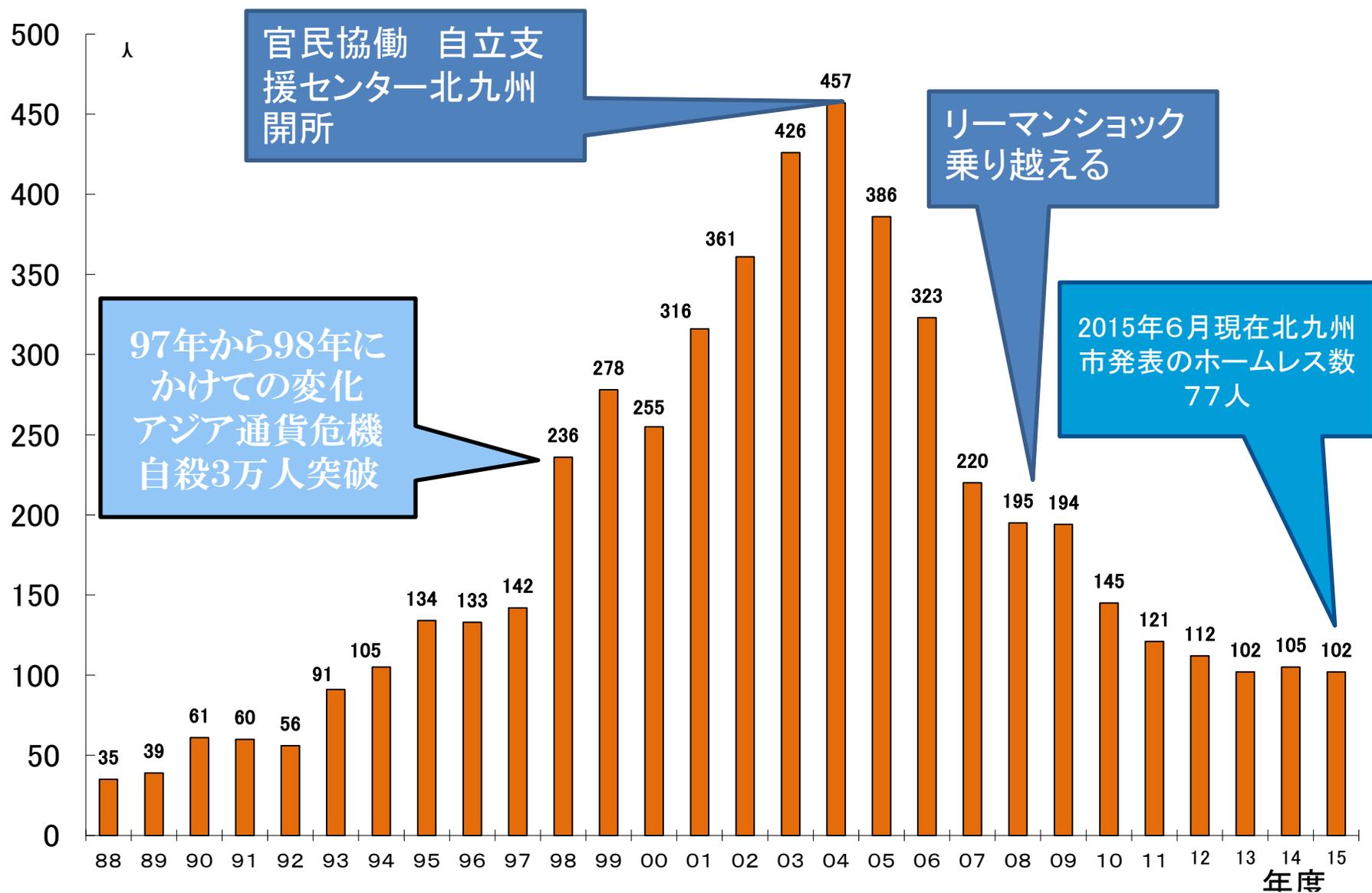
⇒生活困窮者自立支援社会創造法とか

⇒社会を対象にする！

# 地域生活継続のためのネットワーク



# 北九州のホームレス人数の推移



## その2

**不安定社会**の到来！

なぜ、伴走型支援が必要か？

伴走は、

手段ではない！

**伴走は、**

**支援そのもの！**

# 1988年ホームレス支援開始

1988年

⇒労働人口の85%が正規雇用の時代

一般の意識

「がんばれば安定就労できるのに、

なぜ、ホームレスなのか？」

「支援する意味はあるのか？」

※但し、日雇い労働者の歴史あり！

# 1990年代以降日本の就労構造の変化

※現在の正規雇用率60%

※非正規雇用40%⇒1900万人

※年収200万円以下労働者全体の30%

⇒有効求人倍率 1.24

(2015年10月時点)

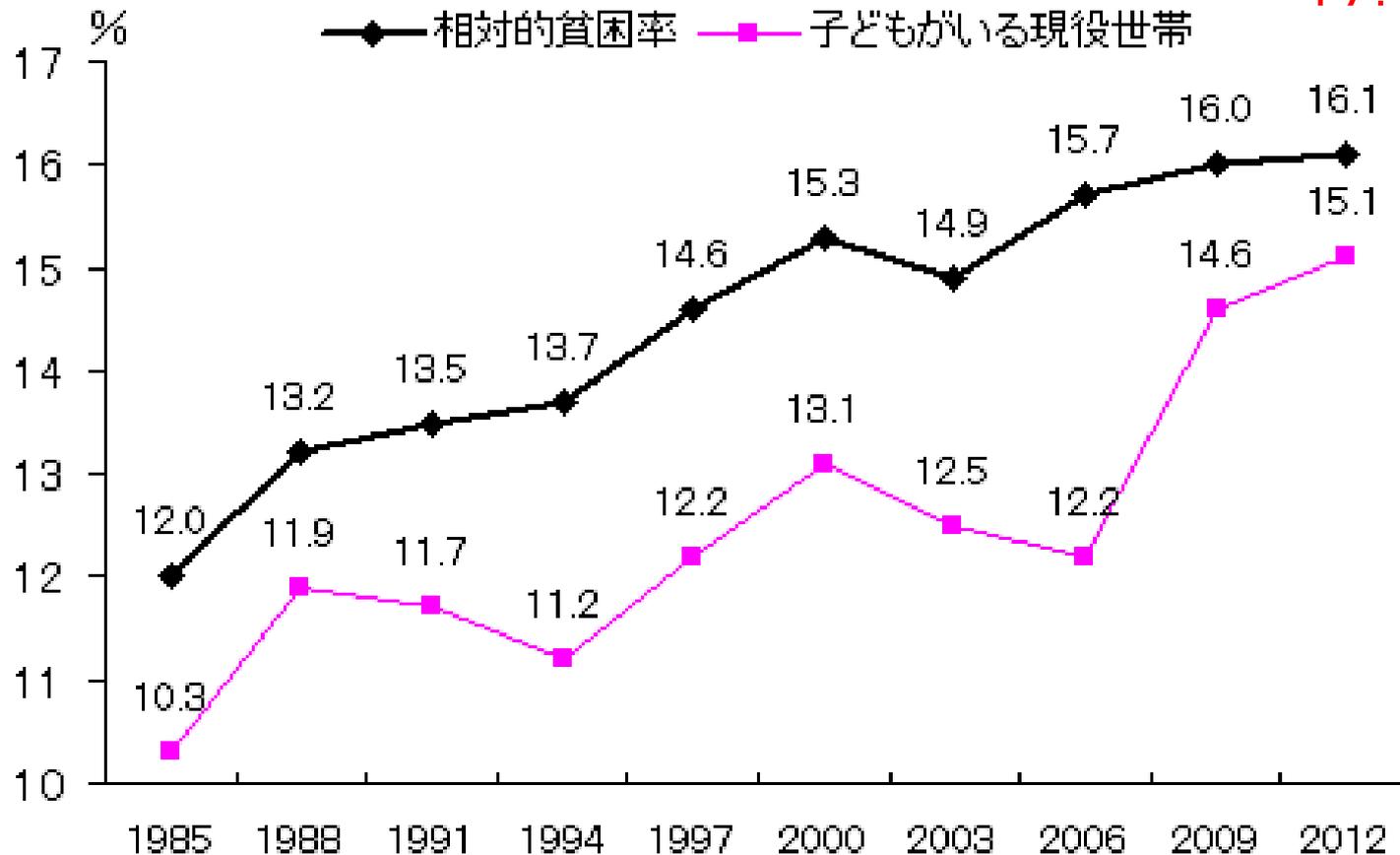
しかし、求人数の6割が非正規雇用

※景気の問題ではない

# OECD相対的貧困率—日本

相対的貧困率の年次推移

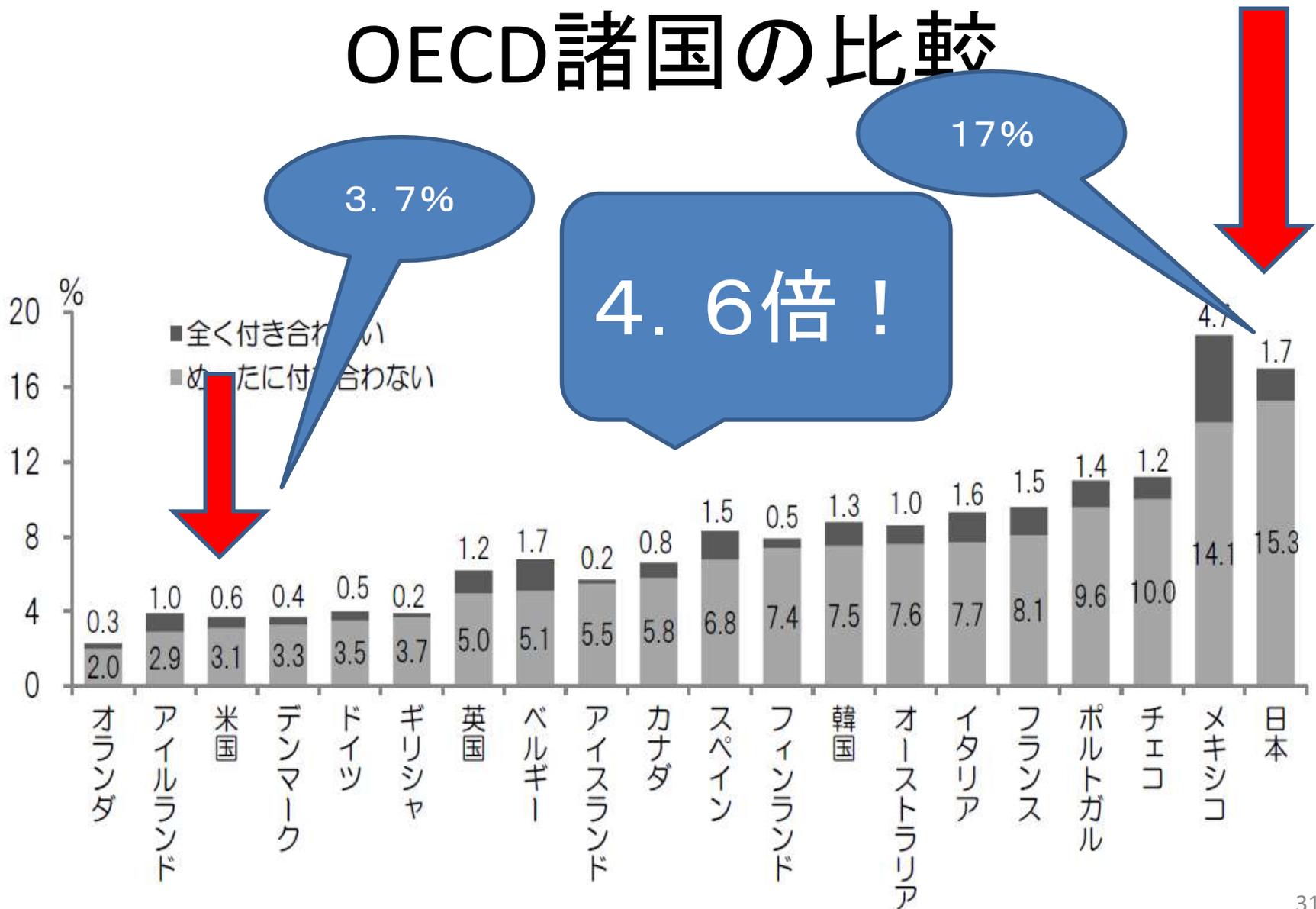
米国の貧困率  
17.1%



(注) 子どもは17歳以下の者、現役世帯は世帯主が18～65歳未満の世帯

(資料) 厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査の概況」

# 社会的孤立の調査 OECD諸国の比較



# 二つの貧困

## 経済的困窮と社会的孤立

米国⇒金はないが、友達はある

日本⇒金もないが、友達もいない

困った時、誰に

「助けて」と言えるか？

※伴走型支援の必要性

# 不安定社会の出現

⇒第二、第三の危機は前提

⇒問題解決では終わらない

⇒継続的支援体制

※伴走や関係そのものが支援  
「助けて」と言える社会

① 処遇の支援・・・点の支援

② 存在の支援・・・線の支援

※これまでの支援現場の多くは処遇中心

※処遇を円滑に図るためにも**存在は重要**

※存在の支援は、支援の相互性を可能にする



伴走支援の必要性

# その3

## 伴走型支援とは？

# 今日の生活困窮者の抱える 二つの困窮

経済的困窮（ハウスレス）  
社会的孤立（ホームレス）

伴走型支援の方向性

## ⇒参加と自立

従来⇒自立した者が社会に参加できる

しかし・・・参加は、自立の前提

社会参加型の就労訓練支援が必要！

## 支援の両輪

- ・経済的困窮・ハウスレス支援・・・**なにが**必要か
- ・関係的困窮・ホームレス支援・・・**だれが**必要か

## 地域のホームレス化

※ある襲撃事件「ホームレス中学生」  
「家があっても帰るところがない」  
「親はいても誰からも心配されていない」

# 戦後日本社会の**困窮概念**の見直し

従来の困窮概念

## ①**経済的困窮**

⇒ハローワーク・年金制度・生活保護など

## ②**身体的困窮**

⇒病院・健康保険・障害福祉・老齢福祉・介護など

## さらに、**第三の困窮** ③**关系的困窮**

※これまで困窮者の横には「誰か」がいた。

「誰か」が社会的資源につないだ。

誰かとは⇒**地縁、血縁、社縁**・・・三つの縁の脆弱化

⇒**第4の縁**が必要？

第4の縁のイメージ

※第1. 2. 3の縁に代わる第4の縁ではなく、

弱くも存在する第1、2、3の縁や既存の社会支援を

**コーディネート型縁**・・・**伴走型支援**の必要

# 貧困の世代間連鎖の実態

## 「貧困の連鎖」に関する道中隆氏（関西国際大学教授）の研究結果

- 生活保護受給世帯の世帯主が、過去の出身世帯においても生活保護を受給していたことが明確に確認された世帯（「貧困の連鎖」が生じた世帯）（A市の例）

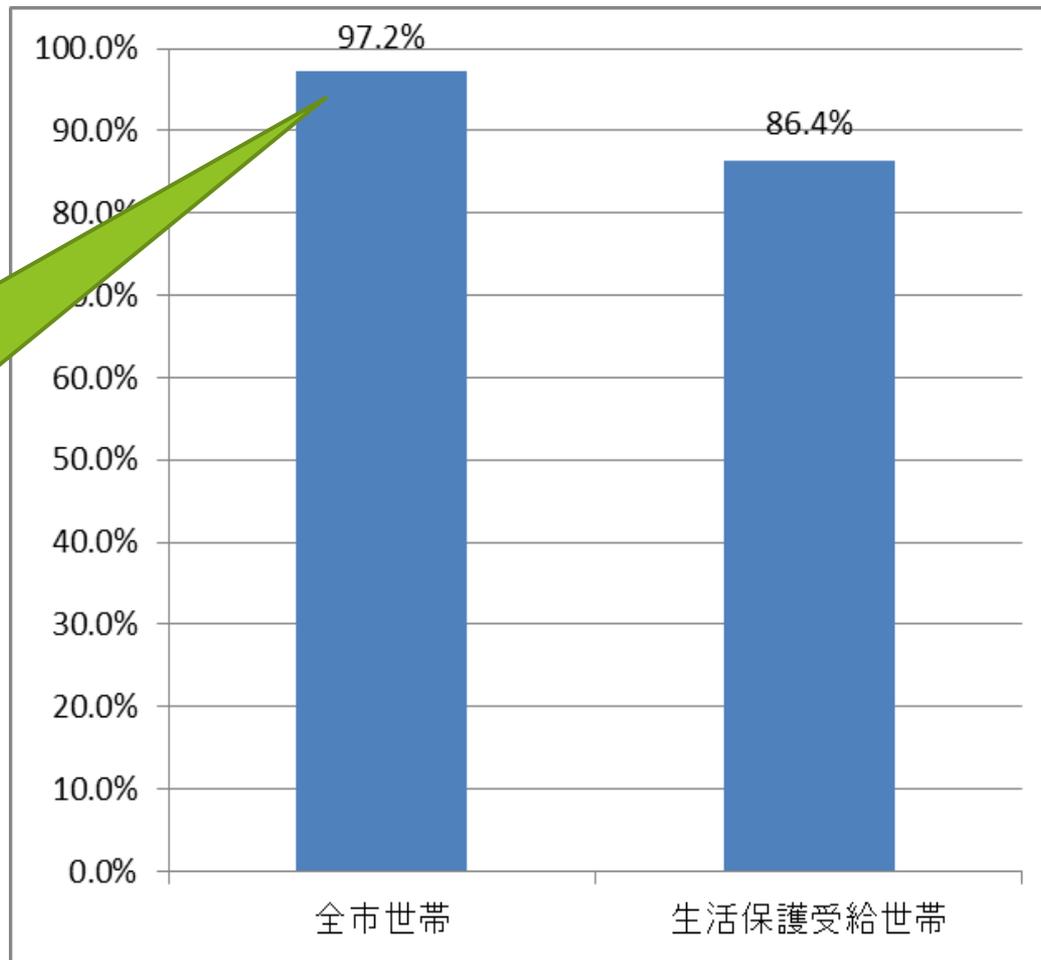
	調査数	該当世帯	該当割合
	390世帯	98世帯	25.1%
うち母子世帯数	106世帯	43世帯	40.6%

（出典）道中隆「保護受給層の貧困の様相－保護受給世帯における貧困の固定化と世代的連鎖」  
『生活経済政策』2007年8月号, No.127, 生活経済政策研究所

# もう一つの貧困のスパイラル

## ① 金の切れ目が縁の切れ目

### 経済的困窮が関係を脆弱にする



全国  
平均  
98.2  
%

生活保護世帯の子  
どもの数・進学率—  
北九州市

出典：北九州市保  
健福祉局保護課

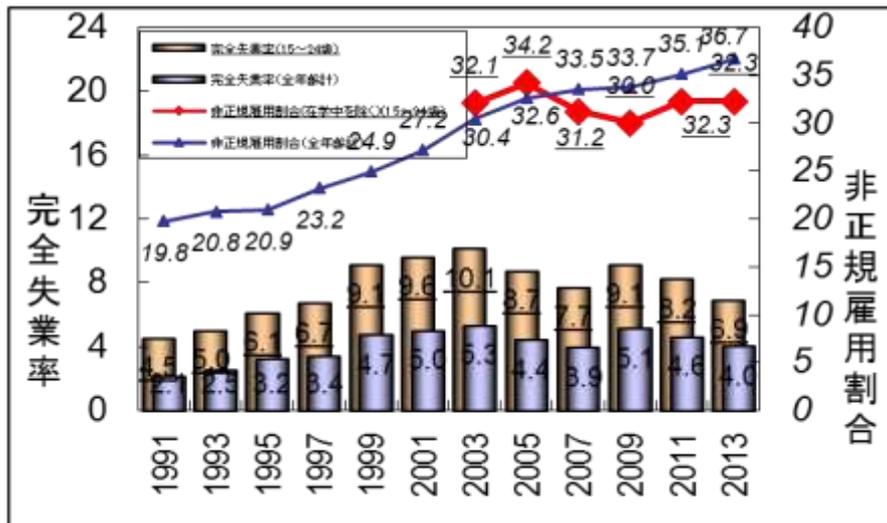
次のデータとどう読むか

人は何のために働くのか？

# 若年者の非正規雇用の増加

- 若年者の非正規雇用割合は依然として高く、非正規雇用の給与は正規雇用と比較して低い。
- 男性非正規雇用の有配偶率は低く、雇用の不安定が結婚に当たっての「壁」となっている。

## 若年者の失業率と非正規雇用割合の推移



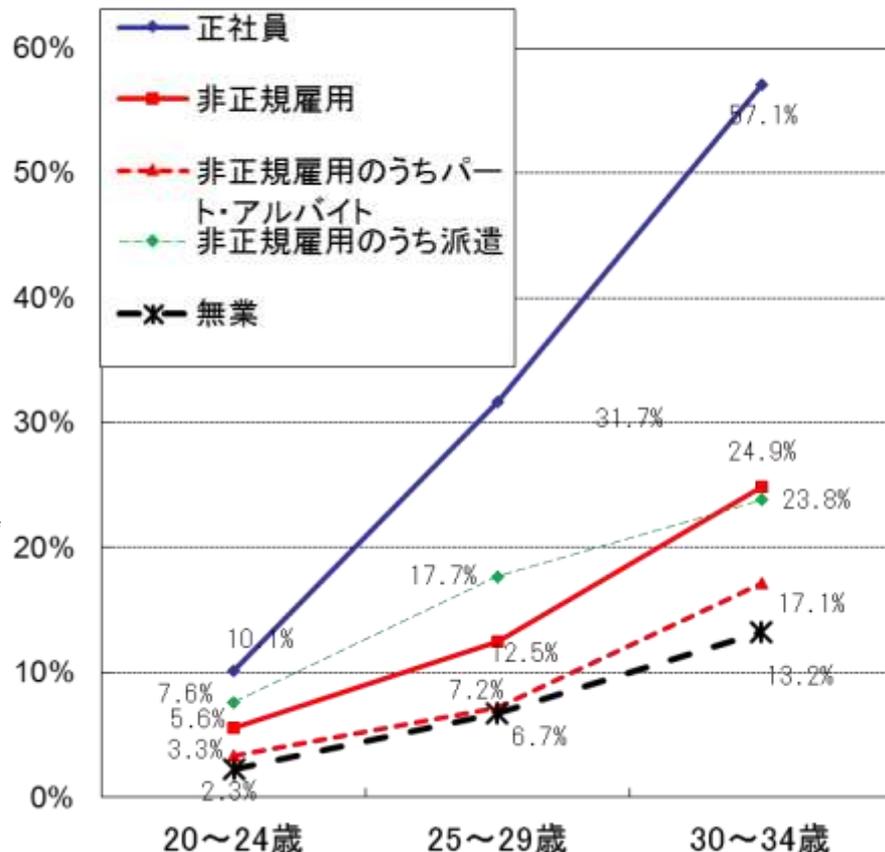
資料：総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査特別調査」  
 (注) 1. 完全失業率については、各年の平均。2. 非正規雇用割合については、2001年までは「労働力調査特別調査」(2月調査)、2002年以降は「労働力調査(詳細集計)」による。調査月(2001年までは各年2月、2002年以降は年平均の値)が異なることなどから、時系列比較には注意を要する。3. 在学中を除く非正規雇用割合(15~24歳)については、2002年以降の「労働力調査(詳細集計)」より調査を開始したため、表の途中から記載。

## 正規雇用と非正規雇用の1人当たり平均給与

	平均給与	
	うち正規	うち非正規
計	408万円	168万円
男	502万円	226万円
女	268万円	144万円

資料：国税庁「民間給与実態統計調査」(2012年)

## 就労形態別配偶者のいる割合(男性)



資料：労働政策研究・研修機構「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状」(2009年)より作成。

# もう一つの貧困のスパイラル

## ②縁の切れ目が金の切れ目

⇒西原さんが野宿になった理由  
「考えてみたら母ちゃんが出て行ったことかなあ」

人は、何のために働くのか

⇒誰のための働くのか

経済的困窮⇔社会的孤立

# 伴走型支援

## ⇒物が物語となる支援

働く意味とは・・・食べるために働く？

⇒炊き出しの弁当と残飯の弁当(エサ)の違い

⇒物に人が関わることで物語化

⇒物語への参与

⇒生活保護における身内支援の可能性

※ある母子家庭との出会い

⇒何が必要か、誰が必要か

再びあのデータを

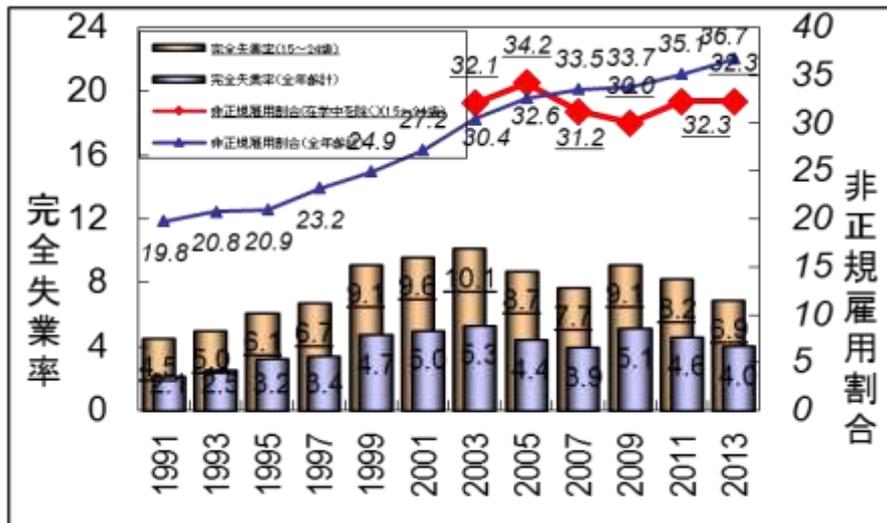
どう読むか

人は何のために働くのか？

# 若年者の非正規雇用の増加

- 若年者の非正規雇用割合は依然として高く、非正規雇用の給与は正規雇用と比較して低い。
- 男性非正規雇用の有配偶率は低く、雇用の不安定が結婚に当たっての「壁」となっている。

## 若年者の失業率と非正規雇用割合の推移



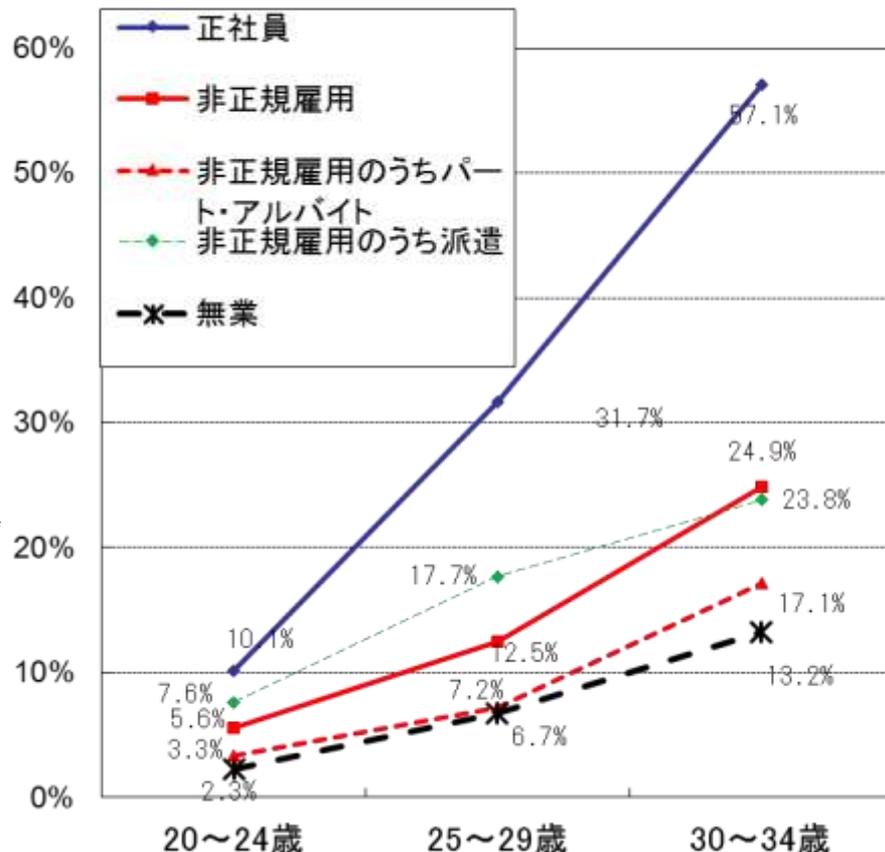
資料：総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査特別調査」  
 (注) 1. 完全失業率については、各年の平均。2. 非正規雇用割合については、2001年までは「労働力調査特別調査」(2月調査)、2002年以降は「労働力調査(詳細集計)」による。調査月(2001年までは各年2月、2002年以降は年平均の値)が異なることなどから、時系列比較には注意を要する。3. 在学中を除く非正規雇用割合(15~24歳)については、2002年以降の「労働力調査(詳細集計)」より調査を開始したため、表の途中から記載。

## 正規雇用と非正規雇用の1人当たり平均給与

	平均給与	
	うち正規	うち非正規
計	408万円	168万円
男	502万円	226万円
女	268万円	144万円

資料：国税庁「民間給与実態統計調査」(2012年)

## 就労形態別配偶者のいる割合(男性)

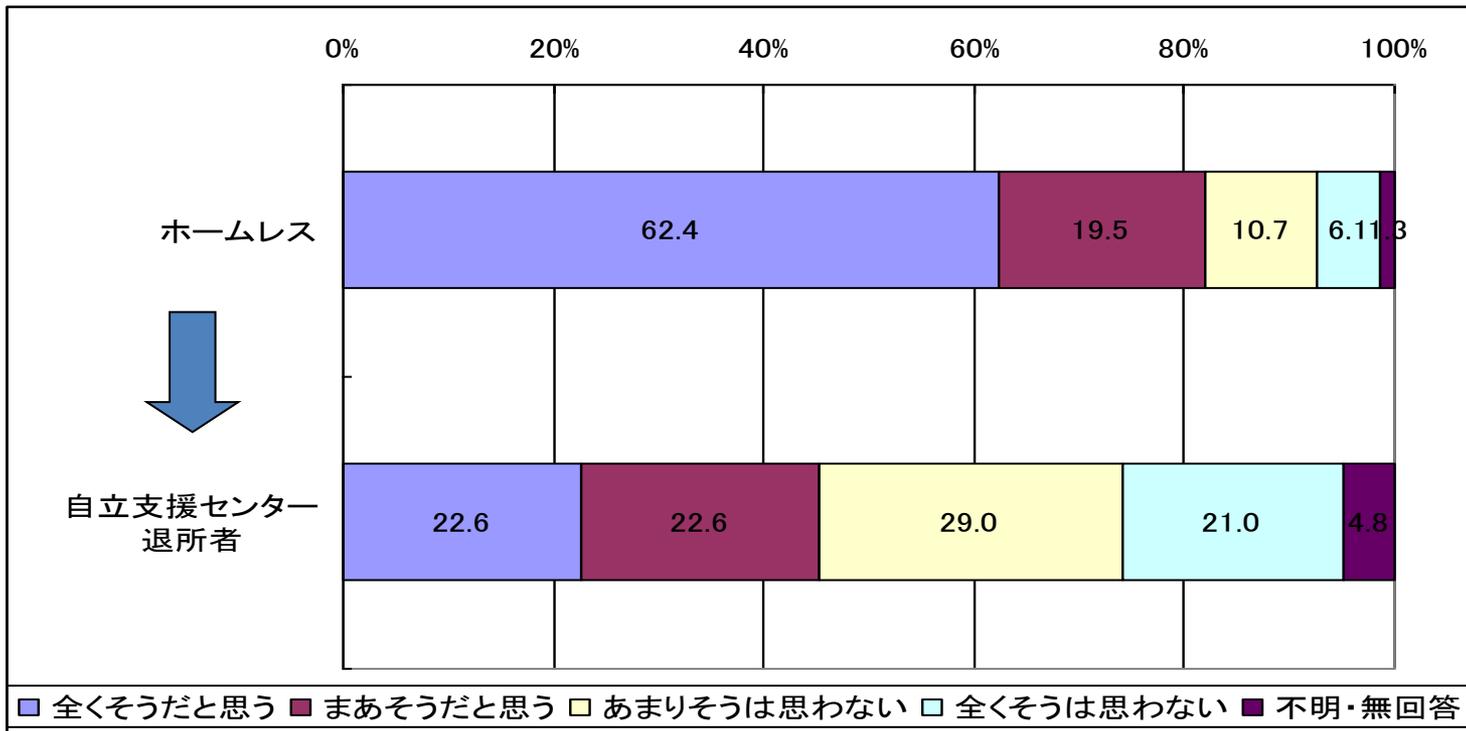


資料：労働政策研究・研修機構「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状」(2009年)より作成。

# 自尊心……社会的孤立感の変化

「周りにたくさん人はいるが、いざとなったら頼れる人はいない。みんな結局は一人ぼっちだ」意識

孤独感自立前62%⇒自立後23%へ

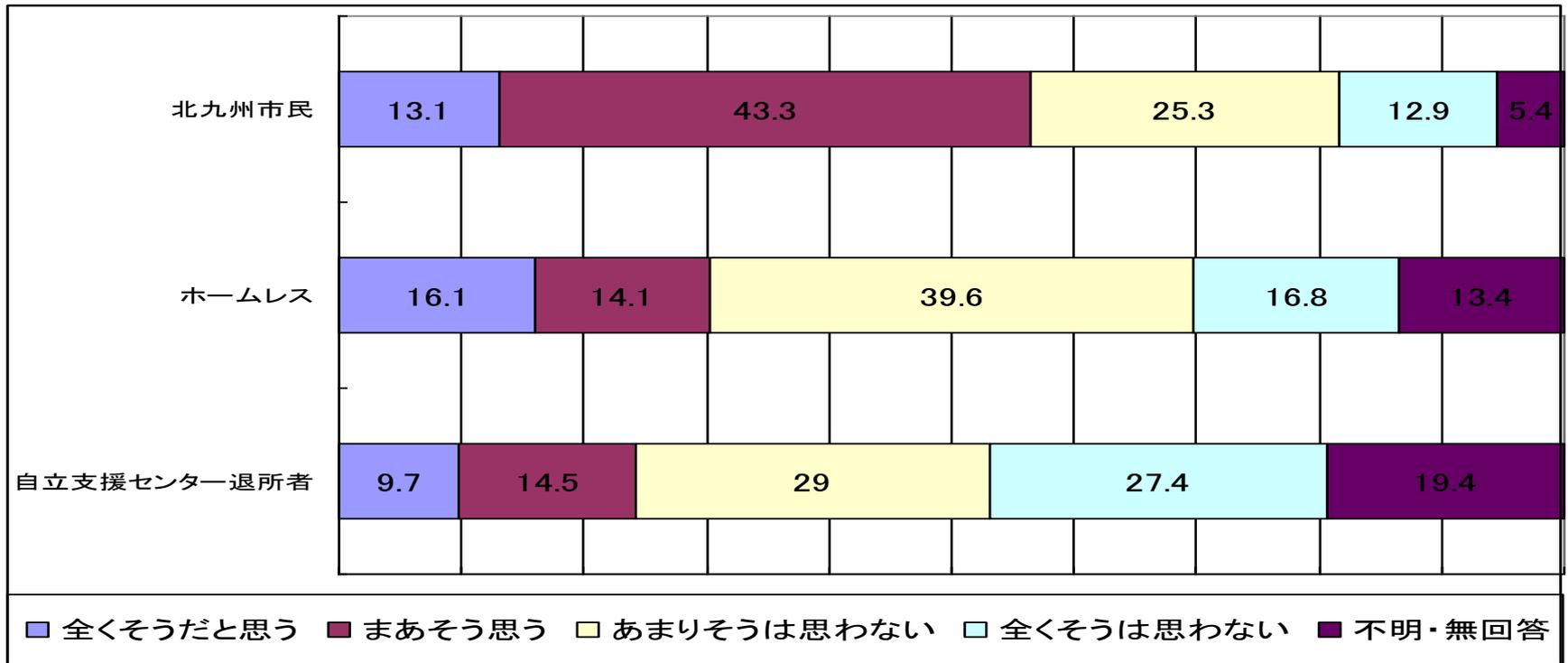


社会的孤立感は大きく減少

(北九州市立大学 稲月正教授調査)

# 自己有用感の変化

「自分はこの世の中、社会にとってなくてはならない存在だ」意識



しかし、自立後、自己有用感が高まっていない

支援の課題。支援、被支援の固定化。就労の限界などが

(北九州市立大学 稲月正教授調査)

# 伴走型支援における**家庭モデル**という仮説

## 自尊感情と自己有用感

### 家庭が持つ4つの機能

①**受け皿的機能**—**家庭内サービス提供**  
住居、食事、睡眠、看護、教育、服飾・・・

②**記憶**……(データベース)

経験・思い出のみならず対処の選択肢

③**持続性のある伴走的コーディネート機能**

家族の成員のニーズに応じた社会的資源との連携をコーディネートする。家庭外サービスの確保。

④**役割の創出**……**自己有用感**

自尊感情

# 「助けて」の二つの効果

## 自尊心

(自分には価値があり、尊い存在である  
助けてくれる社会)

## 自己有用感

(自分には役割がある。必要とされている。  
誰かの助けになれる)

絆の相互性・同時性・可逆性

# 東日本大震災における 産業復興支援および生活困窮者支援

## 相互多重型支援事業

公益財団法人  
共生地域創造財団

グリーンコープ  
生協

ホームレス支  
援全国ネット  
ワーク

生活クラブ生協

漁業復興支援

農業復興支援

伴走型支援による  
自立支援

生活困窮者  
就労訓練

雇用開発  
ソーシャルビジネス

# 被害の状況

## 折浜（おりのはま）

- 世帯数19戸、住民62名
- 震災により住宅4戸が全壊。共同加工場も津波により全壊
- 現存住宅12戸、住民22名
- 底引きトロール船以外の漁船が津波の影響により所在不明。
- 漁業者（前8戸/現4戸）

## 蛤浜（はまぐりはま）

- 世帯数9戸、住民29名
- 震災により住宅5戸が全壊。加工場も津波で全壊
- 現存住宅3戸、住民8名
- 牡蠣漁船、サツパ船共にすべてが流失
- 漁業者（前2戸/現1戸）



# 支援開始後3か月目の出来事

亀山区長

⇒「ありがたかったけど、重かった・・・」

絆とは何か？

相互性(同時性)

可逆性

負荷性(絆は傷を含む)

# 相互多重型支援とは何か？

## ①相互性

⇒助けられた者は、同時に助ける者

## ②多重性

⇒一つの事柄に二つ以上の意義を込める

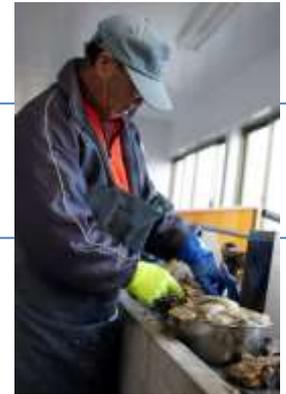
# 被災沿岸部 一次産業の課題

## 高齢化・後継者不足

- 平均64.7歳

## 過疎・人手不足

- 人口流出。労働市場の混迷



元に戻っても10年先は？  
日本の食は？

# 相互性と多重性

①漁師 自らの復興⇔困窮者支援

②困窮者 自立⇔震災復興支援

③消費者 自立支援と復興支援

消費による富の再分配構造

④漁村後継者問題

出合いの場面・・・後継者の発掘

※相互的であり、かつ多重的

⇒一粒で二度三度おいしいカキ



咲える時くる

きと

おは

生きて

石巻市折浜・蛤浜 直送！

# 笑える牡蠣

殻付き2kg入り



**3,150円** 税込

**震災復興 × 雇用創出 × 社会課題**

3.11の津波により、全てを流失した石巻市牡鹿半島の折浜と蛤浜。全国から集められた資材や船によって復活しました。漁師も笑った！青年も笑った！食べるあなたもきっと笑える！皆が笑顔になれる牡蠣を「笑える牡蠣」として販売します。

2012年度  
800箱販売  
就労訓練 5名  
現在  
1名就労自立、  
3名就労訓練継続、

2015年度  
販売目標  
500箱  
就労訓練  
9名目標

# 困窮者支援とソーシャルビジネス

- ①相互多重型であること
- ②意義のインセンティブ
- ③クオリティーとストーリー
- ④選択的消費者の確保
- ⑤消費における富の再分配
- ⑥資源創造と人材育成

ご清聴ありがとうございました。